# 兵庫県立津名高等学校
# 同窓会阪神支部報

**第26号**
発行所
明石市大久保町松陰 768-24
東田　雅俊　内
**津名高校同窓会阪神支部**
ＴＥＬ＆ＦＡＸ
（078）935-6018
印刷所：共栄印刷株式会社
TEL（078）341-0316


## 淡路島に新たな史跡が誕生

淡路市教育委員会
**伊藤　宏幸**
（高三十回生）

令和２年11月20日、国の文化審議会から答申があり、淡路島の遺跡が一つ、新たな国史跡に指定されることになりました。淡路市に所在する舟木遺跡です。

現在、様々な種類の遺跡が全国各地にありますが、その中でわが国の歴史を理解する上で、特に重要と考えられる遺跡が史跡に指定され、保護されています。淡路島においては、淡路国分寺塔跡、洲本城跡、徳島藩松帆台場跡、五斗長垣内遺跡（ごっさかいといせき）が史跡に指定されており、今回指定される舟木遺跡を加えると５か所になります。

舟木遺跡は、昭和41年に発見されました。当時、小学１年生であった安井（旧姓：太田）陽子さん（29回生）が、山で拾った土器を先生に見てもらったことが発見のきっかけとなりました。このことは、当時の新聞でも大きく報道され、重要な遺跡として広く知られることとなります。その後、平成２年から積み重ねてきた発掘調査により、わが国の弥生時代を理解する上で重要な遺跡であることが明らかになり、この度、史跡の指定を受けることとなったのです。

この遺跡は、すでに史跡に指定されている五斗長垣内遺跡の北約６㎞に位置しています。播磨灘を臨む標高１５０～２００ｍの山上に立地しており、弥生時代の後期から終末期（紀元１世紀～３世紀前半）に営まれたムラでした。五斗長垣内遺跡と同じように鉄器生産を行った鍛冶工房建物跡が４棟発見されています。そこから出土した鉄器の中に、五斗長垣内遺跡にはみられないヤスや釣針といった漁具を含む点が大きな特徴です。その他にも、精巧な製作技術が駆使された北部九州産のヤリガンナなどもあり、海を渡ってもたらされた鉄器であると考えられます。

甲子園球場のおよそ10倍もある広大な面積であること、中国で製作された希少な青銅鏡片が発見されていること、卑弥呼の時代とされる弥生時代終末期まで継続すること、お祀りを行った祭祀域が住まいや生産の場から独立している集落構造が認められることなど、五斗長垣内遺跡にはみられない数々の特徴を有しています。お祀りを行った場所からは、多数のイイダコ壺や製塩土器などの漁撈具も発見されていることから、鉄器生産を行いながら、周辺の集落を束ね、海を介した他地域との交流の要となった遺跡ではないかと考えられています。

近年、淡路島では松帆銅鐸をはじめ、弥生時代に関する大きな発見が相次いでいます。それらにはいずれも、海を生業の場とする人々が深く関わっていることが知られるようになってきており、その人々は、後の時代にヤマト王権との深い関係を保ち、海を舞台に活躍した「海人（あま）」とよばれた人々にもつながる可能性もあります。

瀬戸内の東端、畿内の前面に位置する瀬戸内最大の島としての環境が、わが国の歴史上、重要な役割を担う島としての位置を築き上げたものと考えられ、それは弥生時代にまで遡ろうとしています。今、その一端が明らかになりつつあるといえるのではないでしょうか。

平成２年から続く舟木遺跡の発掘

舟木遺跡の調査は現在も継続しており、毎年、新たな発見が報告されています。『古事記』の冒頭を飾る「国生み神話」で最初に生まれる島として描かれた淡路島には、まだまだ奥深い歴史が眠っているように感じられます。

## 神田五作　江戸の新田開墾事業

田中　種義
（高十三回生）

浅野中学の少年だった昭和三十一年の夏休み　私は級友の築穴美義と洞窟探検に挑戦した。　当時　遊びは海に潜っては魚や貝を採り　山に入っては甲虫やくわがた虫を捕まえる。時にめじろやほおじろなどの小鳥を捕らえて飼育する。小刀とナタを使い竹製の籠を器用に作る者もいた。自然一杯の山野を駆け巡って遊ぶ少年時代であった。斗ノ内の海岸から一キロほどの山裾に農家の築穴家があった。裏山の洞窟に二人の少年が懐中電灯を頼りに分け入った。この洞窟　江戸の末期に掘られた灌漑用水路であった。幅約一米　高さ約二米　底にはきれいな清水が流れていた。天井や横壁に手で掘ったつるはしの跡が残っていた。神田五作　父文四郎　父子二代に亘り　新田開墾事業の用水のため掘削された暗渠である。斗ノ内川　素河川の流れを山を超えた東方の神田原に引き込む。便利な重機など無い昔　山塊を刳り貫く難工事であった。江戸の天保三年（１８３２）から明治の初めまで二十余年の歳月をかけて完成させた。防災の備えの乏しい江戸時代　自然の猛威が村人に甚大な被害をもたらす。度重なる水害で耕作地は放棄され荒地となる。そんな窮状を憂いた文四郎が阿波藩に開墾の許可を願い出るのが始まり。文四郎五十二歳　五作五歳であった。藩の許可を得　天保五年から開墾に取りかかる。西山池などのため池の造成に着工。災害は忘れなくてもやってきた。翌年完成したばかりの西山池や田が水害で流出する。工事期間中　何度も造成した池や田や水路が水害に見舞われた。灌漑用に掘削された暗渠は九ヶ所　延べ七・五キロにおよぶ。津名丘陵の常隆寺山系は風化花崗岩の山塊で出来ている。牛馬と人力に頼って掘り進むしかない。藩の実力は米の石高　諸藩も農民に新田開墾事業を奨励　相応に技術も発達していた。等高線に沿い水路を築き　緩やかな水流で無駄なく利水する。池と池　池と水路　水路と田をつなぐ。斗ノ内川から取り込んだ流れを開墾地全てに用水できるよう　要所に七ヶ所のため池を造成した。「水戸守」と呼ぶ水路の管理制度も発展した。水争いを避け公平に用水する農民の知恵である。池は底から順に木製の樋が設置され　稲の生育に合わせ上から順に樋を抜き用水する。温帯季節風の我が国の気候を巧みに利用した水田稲作である。

弘化三年（１８４６）父文四郎事業半ばで死去


すきまくん
新たにオーダー家具専門サイトを開設しました
直接お客様のご注文をお聞きしてお届けいたします！

〒671-2507　兵庫県宍粟市山崎町下牧谷57-1
株式会社フジイ
https://www.s-factory.jp

淡路島の不動産のことなら
当社にお任せください！
不動産アイル

株式会社ツーワン
address　〒656-2131　淡路市志筑3111-15
TEL　0799-60-0077　FAX　0799-60-0088
mail　airu@t21.jp　HP　https://airu21.com/

すりあわせる、トンガレる
MITSU GROUP
ミツ精機株式会社
ミツテック株式会社

六十六歳。この年　五作二十歳。父の遺志を継ぎ五作は不屈の精神で開墾事業に日夜の努力を続けた。嘉永四年（１８５０）素河川の流れを分流し水流を減殺する河川改修工事を行う。新川の流域も開墾できた。

慶應二年（１８６６）新しい開墾地　神田原村の誕生をみた。工事に携わった人や近隣の農民に入植を勧め営農指導に当たる。営農指導は現在の社会事業にも劣らない。小作人が自立するまで年貢の徴収はせず藩には代納する。家　農具　肥料　食料まで与えた。困窮者には無利子でお金も貸し自立を計る。明治に入っても開墾事業は続き　神田原に二十二町歩　十六戸の新田を完成させた。明治十一年　神田原村と机南村が合併　浅野村となる。後　斗ノ内村とも合併　旧浅野村になった。明治二十三年　神田五作死去　六十三歳。文四郎は阿波藩から功績を称え名主に。兵庫県から五作の子　神田寅七に賞状と銀杯が贈られた。神田原の開墾に捧げた文四郎　五作の偉大な業績である。

神田原開墾事業記念石碑

浅野村に産まれ育った私　歴史の巡り合わせを語りたい。浅野小学校入学の昭和二十五年　五作から数え四代目の子孫　神田晴巧と机を並べた。築穴美義の苗字　山塊に穴を築くから苗字制度の発布でつきあなになった。入学時の担任は岡岳子先生　実家の斗ノ内の妙応寺の先祖が命名。文四郎の里は志田家　志田修二は旧友。令和の今　五作が築造した暗渠は　神戸港沖の埋め立て用土砂の採取地となり加えて本四道路の開通で面影もない。神田晴巧が亡くなる数年前　素河川のほとりのすし屋で偶然出会った。家に伝わる古文書を北淡歴史民俗資料館に寄贈したと語った。文四郎　五作を顕彰する碑文が浅野公園に刻まれている。

## 淡路市の十六年

淡路市長　**門　康彦**（高十五回生）

海と里山、細長い線形と五つの塊、津名郡５町の合併は困難を極めると言われていました。

故郷に帰ることを決意し、訪ねた貝原前知事は、「門ちゃん、20年はかかるよ。」と静かに言われました。「貝原の前に貝原無し、貝原の後に貝原無し」と自他ともに認められていた行政のプロの言葉は重たかった。そして、予告された最終期を迎えています。

16年を振り返りますと、まず一つ目は、市の運営維持可能な財政の確保でした。

基金（預金）は、43億円から１３７億円と約３倍増、地方債（借金）は、１０６０億円から６３１億円と約４割減として、国の財政指標（実質公債費比率、将来負担比率）を正常化し、合併以降、黒字を継続しました。

二つ目は、主な事業です。雇用の確保と活性化の核としての企業誘致では、市外から24社、市内の29社と合わせた雇用効果は１１３３人。パソナグループの本社機能の一部移転でも１２００人。公共交通は市バス（あわ神あわ姫バス）と淡路島唯一の海路（まりん・あわじ号）を確保しました。教育の分野では、全国に先駆けて取り入れたタブレット教育が、公立学校情報化全国ランキング２０１９年で小学校２位、中学校５位と評価されました。それら全体の評価として、地域ブランド調査２０１９魅力度ランキングで全国約１８００団体中64位と評価されました。

いずれにしても、これら行政の中身は一般市民には見えにくいものです。代表的な事例として、志筑市街地を毎年困らせていた志筑川の溢水災害を解決するために行った志筑川放水路の大事業。事業開始の調整、地元の用地交渉、説明など多くを担ったのは淡路市のチームでした。それらについても、「あれは県事業やろ」の一言で済まされてしまいます。だからと言ってそのままにしておけば、今でも溢水は解決されていませんでした。

行政と言っても、国県と市町村とでは質が違います。前者は理論先行、後者は現場です。ある時は上意下達、そして下意上達。当然利害が相反するものは板挟みになります。現場は、物事の中身が50％を超えるまでは耐えて、それを超えると市民住民側に立たなければなりません。それが現場の地方自治の核心と言えます。しかし、多くはそうならず、そして「所詮行政」という言語明瞭意味不明の言葉で終わらされてしまいます。

淡路市はそうならないために、チーム淡路市をキーワードとして、これまで16年間、五町の融和、悪しき柵の是正、そして町行政から市行政への脱皮に努め、一定の評価を得ました。

これからは、淡路島のフロントリーダーとして、来るべき淡路島一市への備え、都市近郊に隣接する優位性を生かし、田園学園観光都市の推進、そして大阪湾活性化構想への参画を目指し、スピード感を持って行政執行を進めなければなりません。

１１２年前、洲本に鐘紡の工場が設置され、その後の淡路島の１市10町が形成されたように、今、淡路島の北部に新たな風が吹き始めています。未来へ繋ぐための一翼を淡路市が担っています。

## 高校野球は熱い　応援に行こう

石上　勝美（高十三回生）

卒業して六十年になろうとしている今日、母校の野球観戦を振り返って見ることにしました。記憶に曖昧なところがありますがお許し下さい。

一九七五年夏の県予選決勝は、津名高と洲本高の初の淡路対決で、勤務先の支店長の承諾をいただき、昼休みを利用して会社の食堂で観戦しました。惜しくも一対三で敗れ、甲子園出場の夢は断たれました。これを機会に応援に行こうと決意しましたが、この年転勤となり関西から離れることになってしまいました。（その後一九九一年春～一九九五年秋まで関西を離れています。）

一九八六年春、十一年振りに関西に戻って来ました。この間新聞のスポーツ欄で母校の戦いぶりを見ていました。一九七八年夏の県大会準決勝で報徳に二対五で敗れ、一九八〇年夏の県大会準々決勝でまたも報徳に一対二で敗れました。一九八三年春季県大会で準優勝していたことを後で知りました。久しぶりに関西に戻り、応援に行きたい気持ちが昂り、ＪＲ特急で豊岡球場に行くことにしました。相手校名も点差も記憶にありませんが負け試合でした。駅から球場に行く途中横に車が止まり、「球場はこっちの方ですか」と聞かれ、「そ


淡路島でつくる日本のお線香
宝と花琳
株式会社　薫寿堂
代表取締役　福永　稔（高八回生）
※工場見学・お香づくり体験もあります。お問合せを
〒656-1521　淡路市多賀一二五五―一
TEL ○七九九(八五)一一三〇一(代)
FAX ○七九九(八五)二二六二
URL http://www.kunjudo.co.jp
E-mail awaji@kunjudo.co.JP

おもわず笑顔になる
高田酒店

高田貴代志（高15回生）
〒656-1606
（淡路島）兵庫県淡路市室津2428
TEL/0799-84-0078
FAX/0799-84-1691
http://www.esake-takata.com
E-mail/info@esake-takata.com
淡路島の風　高田さとみのほろ酔ブログ

立花和也（高五回生）
〒654-0071　神戸市須磨区須磨寺三―六―十二
TEL・FAX ○七八―七三一―三一二四

尾崎田鶴子（高六回生）
〒566-0001　摂津市千里丘四―十三―二七
TEL ○六―六三八九―四○七○

矢野　端（高七回生）

うです私も行くところです」と答えたところ、「同じだから乗ってください」と言われ、同乗させていただきました。その方は次の試合に出る関学高の監督のお父さんでした。

三田城山公園野球場では、雨降りでしたが行くことにしました。球場に着いたとき雨は止んでおり安堵しました。連盟は様子を見るということで、一時間遅れて試合が始まりました。皮肉なことに止んでいた雨が二回から降りだし、三回にマウンド・ホームに新しい土が入り一点差で負けていました。四回に逆転しましたが、打ったボールは水たまりでスピードが殺され、守りにくい・走りにくい状態になっていました。グランド状況から見て五回コールドゲームを期待しました。五回が終り勝ったと思いました。しかしその後も毎回土が入れられ、九回まで試合が続行、逆転負けし悔しい思いをしました。

一九九六年春季県大会決勝戦、報徳に七対四で快勝一矢報いました。近畿大会に出場し西京極球場まで足を運びましたが、一回戦で敗退しました。

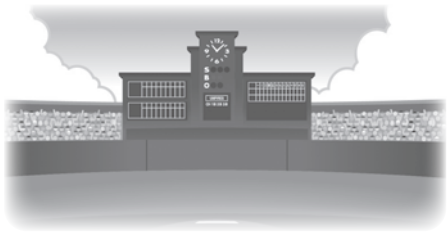
二〇一〇年春の選抜に二一世紀枠として地区代表候補に選出されましたが、部員の不祥事で辞退された模様です。（選抜に兵庫県から二校出場が確定しており元々厳しかった？）

二〇一四年一番気合が入った年。秋季県大会準々決勝四対三明石に延長一〇回サヨナラ勝ち、三位決定戦五対四滝川第二に先行逃げ切り勝ち近畿大会へ。一回戦簑島と対戦三回までに六点入れられ追い上げたが惜しくも五対六で敗れました。兵庫県は神戸国際・報徳も一回戦で敗れ、兵庫県から三三年ぶりに選抜出場ゼロとなった年で、勝利しておれば甲子園出場も夢でなかったと思っています。

二〇一五年春季県大会準々決勝八対一〇神戸国際、九回に六点入れられ逆転負け、まさかの出来事でした。応援に行った球場（五〇回超）。高砂・明石・尼崎・姫路・淡路佐野・神戸市総合運動場・豊岡・三田城山公園・三木総合防災公園・神戸西代？・西京極。県大会過去の成績（春・夏・秋合算）優勝一回・準優勝三回・三位一回・ベスト四、六回・ベスト八、一二回と頑張っています。ここ数年勝ち運がない、みんなで応援に行きましょう。早期のコロナ終息を願っています。

二〇一四年秋季県大会、滝川第二との三位決定戦（明石球場）において薄木前同窓会長（元阪神支部長）・岩橋前洲本市議・佐藤氏と近畿大会の簑島戦（西京極）でまた顔を合わせ、試合後、薄木先生と二人残念会をしました。その一週間後、薄木先生が亡くなられました。残念でなりません。阪神支部長時代から、母校への思い入れは相当なもので、同窓会発展のため尽力されました。阪神支部長・同窓会長と長い間大変お世話になりありがとうございました。あらためて御礼申し上げます。

明石トーカロー球場にて
左から　岩橋　佐藤　故薄木前会長　筆者石上



## ご挨拶

阪神支部長
**東田　雅俊**
（高十六回生）

津名高校同窓会阪神支部の皆様こんにちは。いよいよ本格的な夏が訪れてまいりますが、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

昨年の年の初めより世界中を震撼させている新型コロナウイルス一年以上たった今も世界中で猛威を振るいまだ収束しておりません。現在はより感染力の高い変異株の脅威にさらされております。緊急事態宣言も三度出され、ワクチン接種も医療従事者に続き、高齢者等への接種が本格的に始まりました。今はワクチンの接種により収束に向かうことを願うばかりです。一方では、withコロナの時代、リモートワークをはじめとするこの時代に適応した新しい生活スタイルも定着しつつあります。後世には今の時代はどのように語られるのでしょうか。

さて、昨年は母校創立１００周年の記念すべき年でした。１００周年の記念式典はコロナ禍により大幅に変更・縮小され、会場も母校の体育館・多目的ホールで10月11日開催されました。当初はバスをチャーターし、阪神支部の会員の皆様に参加を呼び掛けておりましたが、中止せざるを得なくなりました。当日はそれでも阪神支部より12名が各自式典に出席しました。簡素な中にも厳かに執り行われた式典に感慨深いものがございました。又、同窓生の皆様には１００周年にあたり多額のご寄付をいただき、母校の教育環境の整備や記念誌の発行等に充てさせていただきました。本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

現在は、人と人の交流をはじめとして社会生活が大幅に制限され、同窓会活動にとっても冬の時代ともいえます。二年に一度の阪神支部総会も昨年８月29日に淡路での開催を予定しておりましたが、中止せざるを得なくなりました。又、４月に予定しておりました奈良散策も急遽中止せざるを得なくなりました。しかしながらこのような時代の中でも工夫の余地はあるのではないでしょうか。阪神支部報の発行やホームページの活用等により活動を続けることは可能です。

コロナ禍の中、私どもは改めて、人と人との交流の大切さを知ることができました。人間にとって不可欠な活動なのです。阪神支部の活動はささやかなものですが、このような時代だからこそ絶やすことなく、少しずつでも継続に努めてまいりたいと思っております。皆様方のご協力・ご参加をお願い申し上げます。

## ご挨拶

津名高等学校　校長
**仲山　惠博**

阪神支部の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。日頃より母校の教育活動に対しまして格別のご支援とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

私は、県立視覚特別支援学校長、県立神戸高塚高等学校長を経て、このたびの人事異動により、県立津名高等学校に着任いたしました。出身は、南あわじ市で三原高校の第33回生、私の妻は津名高校の第35回生です。淡路地区での勤務は、教諭としては三原高校で理科を担当しておりました。このたび創立１００周年を迎え、伝統ある県立津名高等学校に着任しましたことは、とても嬉しくまたその重責を強く感じております。淡路地区の学校に勤務し、あらためて淡路の良さ、淡路の学校の良さを痛感しております。淡路の学校の魅力発信に加え、神戸での校長経験を生かした学校経営を心がけていく所存です。学校を取り巻く多くの教育課

**岩井吉人**（高十二回生）
〒350-1141 埼玉県川越市寺尾六四―三
TEL（〇四九）二四一―八三二三

**田中種義**（高十三回生）

**石上勝美**（高十三回生）

**笠山恭昭**（高十三回生）

**南正光**（高十四回生）

**上田**（旧姓森）**佐代子**（高十五回生）
**北川**（旧姓山口）**映子**（高十五回生）

**松野聰子**（高十五回生）

**中野淑郎**（高十五回生）

**東田雅俊**（高十六回生）

題に加え、淡路地区の課題もある中、二世紀目を迎える本校の舵取りを、職員と協力しながら一所懸命に努力しますので、これからもご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本校創立１００周年関連事業では、多大なるご協力を賜り感謝申し上げます。コロナ禍でしたが、創立記念式典は、令和２年10月11日（日）本校体育館において挙行しました。出席者は多目的ホールとのリモートと合わせ、来賓60名、招待者75名に加え、主催者３名、生徒４７５名、教職員43名で、感染防止を徹底しながら厳粛に実施されました。また、記念品制作として、校舎をモデルにしたクリスタルの置物と手さげバッグの制作、記念誌の発行、さらに創立１００周年記念キャラクター「つなリン」を生徒からデザインを募集し制作しました。さらに記念事業として、カリヨン修復、教育機器ワイビア５を設置、音楽室、社会科教室、選択教室２教室への空調設備設置、そして同窓会館（エンジ会館）をミュージアム化し、同窓生の方が校史資料室や集いの場としてより使いやすくなるように改修しました。創立１００周年関連事業では、多くの寄付金をはじめ、ご支援ご協力いただいたことに心より感謝いたします。

学校の状況ですが、昨年度当初は新型コロナウイルス感染症に向けた緊急事態宣言が発令され、臨時休業となりました。本年度は、感染防止対策を徹底したうえで、ほぼ例年通りの教育活動を展開しておりますが、感染者の状況によっては、今後の教育活動には多くの困難が予想されます。コロナ禍の中でも、この３月の卒業生、72回生の１５５名の進路実績は、国公立大学進学者数は30名、私立大学へは66名、短期大学・専門学校等へは47名、公務員・就職者は10名でした。部活動では、ギターマンドリン部、書道部が全国大会への出場権を獲得し、陸上競技部は近畿大会出場を果たしました。母校の後輩たちは、文武両道を目標に掲げ、たくましく活躍しております。

結びに、同窓会阪神支部の皆様には、今後とも母校への教育振興と後輩への激励のため、ご支援とご協力を賜りますことを重ねてお願いいたしましてご挨拶といたします。

## 住み慣れた地域でその人らしく
### ―グループホームを運営して―

岡田　光正（高十九回生）

母校津名高校が創立１００周年をめでたく迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。青春の多感な一時期を伝統ある学び舎で過ごした日々に思いを馳せるとき、感慨深いものがあります。改めて、お世話になった先生方や学友の皆様に感謝を申し上げます。

私は現在、生まれ育った淡路市（旧東浦町）で十数年前から高齢者施設を運営しております。淡路市も他市同様、総人口に占める65歳以上の割合が40％近くにも達し、県下でも５番目に高い高齢化率となるなど、高齢化や核家族化が急速に進み、一人暮らし世帯も増加しています。

こうした中、皆様もご存知のように、平成12年（２０００年）に「家族介護の限界」「社会保障費の増大」などを背景に、それまでの公的な「措置制度」に代わり「介護の社会化」を目指す介護保険制度がスタートしました。

たとえ「認知症」になっても、町外れの老人ホームや病院ではなく、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、そのようなまちづくりの拠点的な役割を担うものとして、グループホームがこの年、導入されました。

私は長らく大学で教鞭をとるかたわら、福祉とは縁遠い分野である経済学の研究に携わってきました。

しかし、高齢化の進行に伴う様々な問題が身近になるにつれて、しだいに高齢者福祉に関心を持つようになりました。そんな折、妻の母親が認知症を発症し、介護に手がかかるようになりました。当時、認知症はまだ「痴呆」と呼ばれ、進行性の「絶望的な病」だと一般に信じられていただけに、信じがたい思いでした。そんな中、私の人生を変えた一冊の本に出くわしました。そこにはこう記されていました。「たとえ認知症を患ったとしても、ふさわしい環境やケアがあれば、症状を和らげ、その進行を遅らせることができる」と。そして、そのような認知症ケアの切り札として「グループホーム」があることを知ったのです。

その頃から、旧来の大規模な施設ではなく、小規模で家庭的な雰囲気のホームを創りたいという思いが日増しにふくらんでいきました。淡路市の北部に位置する旧３町ではまだ未整備だったことから、まず市に働きかけ、早急な整備を要請しました。そんな折、淡路市の第３期介護保険事業計画で、グループホームの整備が決まり、私たちは特定非営利活動法人「淡路島シャローム の会」として応募し、翌平成19年９月１日に事業者指定を受け、念願の開設にこぎつけました。

ホームの名称は、自宅の玄関に植えてある花水木に地名を冠して「くるま花水木」としました。今年梅香る頃、実の母親も、その最期を念願のホームで看取ることができました。享年96歳でした。

現在、グループホームに隣接して、サービス付き高齢者向け住宅、併設の訪問介護、デイサービス、居宅介護支援の各事業所が整備され、島内外の人に広く利用していただいております。

## 剣道と私

志田　守（高二十六回生）

現在、兵庫県立佐用高等学校に理科（生物）の教諭として、再任用で勤務しています。

私が剣道を始めたのは昭和44年。北淡東中学校に入学して、格闘技が好きだったのと、先輩が優しそうだったので剣道部に入部しました。運動神経はよくありませんでしたが、負けず嫌いの性格で、学校の部活動が終わってからも、家に帰って一人で素振りをするなど、一生懸命稽古をし、３年生では近畿大会でベスト８になりました。津名高でも剣道部に入り、担任でもあった松村吉成先生と橋本文吾先生に指導していただきました。古い木造の建物で、２階が各クラブの部室となっていた剣道場で、少人数ではありましたが毎日稽古に励みました。当時から正月に稽古始を行っていましたが、今も毎年１月２日に津名高の剣道場で行っています。剣道部１期生の高野晏生先生を中心に活動を続け、平成27年には創部50周年の祝賀会を行いました。私は稽古始にほとんど毎年参加しています。午前中は高校生や卒業生と稽古で汗を流し、午後からの懇親会で先輩や後輩と楽しい時間を過ごすことが、私にとって年始の恒例行事となっています。今後の津名高剣道部の活躍と稽古始の継続を心から願っています。

大学でも剣道を続け、昭和54年に高校教員として西播地域に赴任しま


ジャパンホームベーキングスクール
正徳孝夫（高十六回生）
TEL（〇六）六三八九―三一五五

高十七回生　サッカー部一同
川添　茂弘・潮崎　章二
正面　昇

行政書士みつや法務事務所
行政書士　潮崎　章二（高十七回生）
〒664-0886
伊丹市昆陽東四丁目十三―一
札場ノ辻ハイツ二〇八
TEL〇七二―七六七―一九六二
FAX〇七二―七六七―一九六三

森　章次（高十八回生）

高十八回生有志一同
杉岡実季子（旧姓 宇城）
仲野和美
鶴田真弓（旧姓 中之内）
奥田照子（旧姓 酒井）

税理士　花野正悦
〒652-0804
神戸市兵庫区塚本通七―一―十四
TEL（〇七八）五七八―五三三五
FAX（〇七八）五七七―二三一八
（高十九回生）

津名高校同窓会東京支部支部長
東京淡路会副会長
清水啓司（高二十二回生）
〒333-0803
埼玉県川口市藤兵衛新田八十八
TEL（〇八〇）六五二八―八三四八

FJK法律事務所
弁護士　藤木啓彰（高二十七回生）
事務所〒551-0041
大阪市中央区北浜三丁目一―一一
淀屋橋平井ビル六階
TEL〇六（六二〇六）四一六八
FAX〇六（六二〇六）四一七〇
E-mail info@fjk-law.com
http://www.fjk-law.com

した。それからは、学校の部活動指導だけでなく、仕事後、地域の剣道連盟や教職員の稽古会に参加し、試合にも多く出場してきました。西播は全国的に有名な赤穂をはじめ剣道の盛んな地域です。

私は現在、週に2日少年剣道教室の指導、一般の稽古を1日、4kmのランニングを1日行っています。そして、今でも出場できる大会には選手として出場し、60歳を過ぎてからは「ねんりんピック」にも出場しています。

「ねんりんピック」は正式には全国健康福祉祭という大会です。剣道だけでなく20を超えるスポーツ、文化の競技が行われます。全国から約1万人の60歳以上の選手が集まる、「高齢者の国体」のような大会です。

2年に1度出場でき、私は平成29年と令和元年の秋田県と和歌山県で行われた大会に出場しました。県の予選を勝ち抜いた選手5名と監督、マネージャーの7名のチームで、強化練習等を経て試合に臨みます。それまで面識のない人も剣道の稽古を通してすぐに親しくなれます。県の代表として勝利を目指しチーム一丸となって試合をする緊張感は最高です。また、開催地の人々のおもてなしや、県外の剣士との交流も心温まるものがあります。高齢になってもこのように剣道を楽しむ機会があることを知り、これからもますます頑張ろうと思っています。

勝負では勝つことが最大の目標ですが、剣道の最終目標は「人間形成」です。私は今まで、勝負に勝つことを貪欲に求めてまいりました。しかし、これからは「生涯剣道」を目指して、選手として大会に出場しながらも、心の修行に重点を置いて、稽古に励みたいと思っています。

創部50周年の記念祝賀会

## 書道部顧問　隅田泰弘先生に導かれて

坂田　美重子（旧姓鳥居）（高十七回生）

気が付けば73歳。津名高卒業から55年書道教室を開いて40年。

今も小学生から大人迄二つの教室で教えています。

こんなに長く書への興味を持ち続けることができた、その原点は、隅田先生との出会いでした。個性豊かで、独特の教え方、芸術家肌そのものの先生に大きな影響を受け、高校三年間墨の香り漂う部室に入り浸りました。基本の「古典臨書」は、それは厳しく長時間指導して下さり、またある時は自由に楽しむ「創作書道」の時間を作ってくれました。もちろん私はこの自由な時間が一番好きでした。中でも一番思い出深いのは、童謡「夕焼け小焼け」を教室中に流し、歌を聞き乍ら作品作りする時の事です。

夕焼け小焼けで日が暮れて山のお寺の鐘が鳴る…「書道は楽しい」と思えた瞬間でした。今もはっきりと記憶に残っています。

高校卒業後大阪の企業に就職。この会社でもすぐに書道部に入部。仮名書道で有名な先生が指導に来てくださっていて、私にとっては新たな分野の仮名の世界にのめり込むことになり、数年間又、筆を持ち続けることができました。

大阪でのOL時代、一人暮らしで退社後は全て自分の時間。楽しい青春時代を送っていました。が、ふと近い将来のことを思い資格に挑戦しようと一念発起。新たな先生の元にお稽古に通い、師範取得しました。

その後、結婚、子育てと環境も変わり、書の世界から遠ざかっていましたが、子供の小学校入学を機に、教室を開き、今に至っています。

子供が多い頃に開塾しましたので多くの生徒を抱え30代40代、50代は忙しい日々でしたが、「生きがい」と言う大きな喜びをもらって、今もそのつづきを歩んでいます。

はじめは小学生だけの教室でしたが、生徒の成長につれ、中学生、高校生、大学生と広がっていきました。

「教えることは学ぶこと」今も長く所属している会で勉強し乍ら教えています。

教室のモットーは「継続は力なり」一人でも多くの生徒が師範取得して卒業してくれる事が私の目標です。

強烈な印象を残してくださった隅田先生との出会いを原点に、その後も良き師、良き書友に恵まれ、生徒の皆んなから沢山の元気をもらって、感謝し乍ら過ごしています。私も「継続は力なり」を心に、もうしばらく教室を続けます。

墨との長い付き合いの間には、教え子たちがいろんな便りを届けてくれました。

写真入り賀状で「結婚しました！」、「助産婦めざしてがんばってます！」、「息子が高校生になりました！」、「三度目の挑戦でやっと弁護士になれました！」等々、立派に成長している姿を思い浮かべ乍ら、何度も便りを読み返しています。

好きなことを仕事にする事が出来、幸せです。

最後に、つい先日、生徒の小学生の女の子に、「先生の夢は何？」と尋ねられました。ハッとしました。70歳を過ぎてもまだ夢を抱いていいんだと気づかされました。

「人生百年時代」今年、書以外にもう一つ夢を見つけます！

彼女にいい言葉をかけてもらって、又一つ元気をもらって感謝です。

## 卒業後の道のり～島心

大歳　久美子（高四十七回生）

私が進学した東京藝術大学は、我が国唯一の国立音楽大学です。

学部は美術と音楽の２つのみで、それぞれ１学年の定員は２５０名。

センター試験後３回の試験があり、対面の実技審査で毎回ふるいにかけられていく。

倍率もさる事ながら、一定水準に達していなければ合格該当者なし、となる狭き門。

最高学府。教授陣も日本を代表する名だたる最高実力者ばかりだが、学生も負けてはいない。現役で受かるような子は既に活躍していたり、コンクール受賞者、音楽一家や家元の子息。留学経験者だったり音楽高校出身者だったり、才能の塊だったり。まさに英才奇才揃いでした。（ご興味のある方は「最後の秘境 東京藝術大学 天才たちのカオスな日常」をご覧下さい）

そんな選ばれし精鋭達が集まる藝大で、当然の如く私は劣等生。

卑下はしていないけれど、普通人を探すのが難しい藝大において、あまりにも平凡でした。

舌を巻くような学友の実力に尊敬はしたが、非凡な環境で育った彼等は良くも悪くも凄すぎて、世間ズレした境遇を羨ましいと思った事は正直一度もありません。

そしてまた、早学だから、器用だから優等生だから、というだけで大成する世界ではない。残念な事に、才能がありながら情熱や自主性、基盤となる他者との絆が弱い人は、挫折したり辞めたり病んだり、迷走する人もいました。

つまり、良い学校に行けば、必ずしもその後の人生の道が切り拓ける訳ではないし、悪い学校に行けば、その後もたかが知れている、なんてそんな事もないのかもしれません。

私は全国各地で活動後、２０１２年と２０２０年の古事記・日本書紀編纂１３００年記念の折には、二つの神話作品を手がける事ができました。

日本の神話は、日本の楽器でこそ表現するべきだと思っていたし、それは国のはじめの淡路島、日本最古の社である伊弉諾神宮氏子でもある私が、しなければいけない事業だと思っていました。

伝統芸能に携わる者の責務として、日本人でありながら日本の楽器を知らない人、淡路島民でありながら国生み神話・伊弉諾神宮を知らない人をなくしていかなければならない。そういう思いで演奏会以外に、学校公演や講演活動を始めて10年が過ぎました。

藝大では劣等生だった私がここまで続けてこれたのも、淡路島ならではの地盤と絆があればこそと思います。支え応援され応える、そういう故郷のご縁に年を経るごとに有難いと思うようになりました。音楽芸術による恩返しはまだ道半ば。故郷の、益々の活性化を願って―。

国生み神話音楽祭での演奏

# 東京支部便り

清水　啓司（高二十二回生）

津名高校は２０２０年に創立百周年を迎え、本校では、コロナ禍のなか規模を大幅に縮小して、生徒主導による記念式典（10月11日）が開催されました。時節柄、東京支部からは参加を見合わせました。また、東京支部のほうでも、総会（５月予定、隔年開催）、人気イベントの趣味の会（つなごう会）もすべて中止となりました。会員の方々も顔合わせを楽しみにしておりましたので大変残念でなりません。２０２１年こそは開催できるよう切に願うばかりです。

「利他の心」

２０２０年は歴史的転換点になる一年となった。新型コロナウイルスの危機は人種差別や格差問題の拡大などで世界に埋めがたい深い断層を刻んだ。一方プラス面では、雇用・医療・教育分野の岩盤規制改革が動き出し、企業や自治体でも「変革と再成長」のトリガーとなっている。

京セラの稲森和夫名誉会長や天台宗尼僧の瀬戸内寂聴さんの書籍で有名な『利他の心』という思考法があります。現役時代は経営コンサルタントの立場で、「経営理念」「経営信条」「行動規範」の模範例として何となく使っていましたが、最近やっと『利他の心』が実感できるようになってきました。現役を退き現在はフリーランスとして、技術・市場調査と分析および提言レポートを執筆しています。そのレポートが仕事の成果物（パフォーマンス）になるのですが、以前はお客様といえどもレポート著作権を厳しく管理していました。しかし最近では、〝ご自由にお使いください〟とひと言添えてレポートを提供しています。業務委託フィーの多寡にも拘らなくなり、〝お客様の言い値〟で請け負うケースもあります。そう思うようになったのは、自分の知見、スキルおよび経験を通して創られたレポートを現役世代の経営者やビジネスマンに役立てていただき、喜んでもらうことの大切さを実感したからです。

大量生産の〝モノづくり〟時代に適した日本型雇用（終身雇用、年功序列、新卒一括採用など）はここ数年以内に終焉を迎え、これから価値創造の〝コトづくり〟時代になり、働き方のパラダイムシフトが起きます。「ジョブ型雇用」「副業の解禁」「リモートワーク」に代表されるように、「実力・成果主義」、「働き方自由（＝不安定）」になる一方で、「働く人が主観的主体的に仕事をマネジメントできるスキル」が必須条件になります。そうすると、若い世代には、自らキャリアを設計し、新しいスキルを習得しながらキャリアアップしていく自律型プロ人材が求められるようになります。

健康年齢までであと数年ですが自由に働けるうちは、自分の経験値や知見・スキルが少しでも役に立つよう、若いビジネスマンに対して色々な機会を通じてメンタリング出来ればと思っています。

# 六十にして耳順う

正司　顯好（高二十七回生）

中国の思想家、孔子大先生は論語の中で、四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして己の欲するところに従いて矩を超えず。と述べておられる。六十になって、やっと周囲の人の言うことに耳を傾けることができるようになるということらしい。そこまでたどり着くのに六十年の歳月を必要としなければならないということであろうか。

私は小さいころから運動することが好きで小学生時代はソフトボール、ポートボール、陸上競技等に取り組み、中学時代は野球部に所属した。高校時代は書道部であったが、大学でテニス部に所属した。今は六十を過ぎ腰痛に悩まされながらも大学のOB会のゴルフ部に所属してスポーツを楽しむ日々を送っている。

数年前に東京淡路会のイベントで社交ダンスのアルゼンチンタンゴが披露された。即興劇を観ているようで即座に引き込まれた。パートナーである女性は、リーダーの男性のリードに順ってステップを組み立てていくのであるが、二人の呼吸がぴたりと合わなければダンスは成立しないのである。だからと言って男性が主導権を握っているわけではない。男性は常に女性の目の中に飛び込み、五感の全てを総動員させながらパートナーの鼓動と想いを感じ取りながら、つないだ手の動きによってリードを試みていくことになる。アルゼンチンタンゴと言えば昨年、女優の米倉涼子がジョニィ・ディップ似のアルゼンチン人ダンサーと電撃結婚の報道が流れた。彼女がアルゼンチンタンゴに魅せられてダンス教室に通っているうちに恋が芽生えたようであるが、彼女のファンとしては、心がざわつき少々切ない思いである。人気テレビ番組『ドクターX』の中での名台詞「私、失敗しないので！」の言葉通り実生活でもうまくいってもらいたいと彼女の幸せを願うばかりである。

わが国で社交ダンスが脚光を浴びる切っ掛けは１９９５年周防正行監督の映画「Shall we ダンス？」が大ヒットしてダンスブームに拍車がかかった。教育テレビでも「レッツダンス」でプロによる細やかなステップの解説からルーティーンの流れまでが放映され一気に市民権を獲得することになっていった。それまでの社交ダンスは、ある年配の主婦層や定年退職者が趣味的に取り組んでいるものというイメージが強かったが、そうしたイメージが払拭され社交ダンスは一般教養としてスポーツとしてのアイデンティティを獲得して蘇った。そう、社交ダンスを教養あるダンススポーツとしてとらえた時、他のスポーツとの決定的な違いがある。それは私が小さい時から取り組んできたポートボールや野球やテニス等の競技は、対戦相手と得点を奪い合う競技であった。例えば野球で延長戦に突入すれば、相手チームから1点でも多い得点を奪い取るための死闘が繰り広げられたのである。が、ダンススポーツは相手から得点を奪い取るのではなく、相手に自分の持っているものを与えることで成立するスポーツである。相手に自分の技術や想い、時には生き様さえも存分に与えることで、相手からも還ってくる二人の共同・創造作業である。それが美につながり観る者を感動させるのであろう。

この社交ダンスを踊る時の相手との間の取り方こそ、相手の話に耳を傾ける時に大切にしなければならないことではないだろうか。先ずは自分の体のなかを空っぽの状態にして相手の話に素直に耳を傾ける。その話に寄り添いながら自分が六十年かけて得てきた知識と経験から助言できそうな話を拾い出してみる。それを直ぐに相手に伝えるかどうかは、相手の様子を見ながら、もう一呼吸おいて様子を見てみる。更に相手が話し始めれば、黙って相手の話に耳を傾け続ける。そこで初めて相手に同情したり、共感したりすることでお互いの理解と信頼関係が深まっていく。

本場アルゼンチンでは初めて出会った男女がタンゴを踊る時は、３回連続で踊ることが通常となっているようだ。１回目は相手のダンスの経験を探り合い、２回目は実力を感じ合い、３回目は共感することを楽しむというのだ。１回目より２回目、２回目より３回目のダンスになるに順って二人の距離は近づいていくらしい。ダンスは全て無言の対話である。

孔子大先生の唱えた「六十にして耳順う」と言う格言は、簡単なようで簡単ではない。易しいようで易しくはない。やはり人として他者の言葉に耳を傾けられるようになるには、六十年という歳月を要するようである。故郷である淡路島を離れて四十五年。両親も二十六年前の阪神淡路大震災で被災し関東に移り住んだ。先日、母たか子の米寿を祝う会を開き四家族十二名（内、ひ孫二名）が集まった。返礼としてたか子から各家庭に自作の俳句を短冊に自筆でしたためたものが、お茶菓子と共に記念品として配られた。

・米寿と言ふ春満月の中にをり
・冬の星一生知り合う人の数
・島育ち終は平野の通し鴨
・人生は塞翁が馬春兆す

母たか子は、母校津名高校の二期生で私の大先輩でもある。が、この日、ふっと気づかされたことがある。「耳順う」とは、米寿まで家族のためにひたすら生きた母の想いに、ただただ耳を傾けることではないか。さらに妻の娘の孫の想いにも心を無にして耳を傾けることではないか。仕事上での利益とは無縁のただただ聴く行為こそが、天から与えられたレッスンではないか。六十代でしっかり受け止めた者だけが「七十にして己の欲するところに従いて矩を超えず」の心境にたどり着けるのであろうか。と思う今日この頃である。

# つなごう！つなこう１００年つながるミュージアム

津名高等学校　前事務長　川東　丈純

２０２１年春。つなこう１００年つながるミュージアムが開館した。２年前の春、30年ぶりに淡路島に着任、課題のひとつ校史資料室は同窓会館のミュージアム化と人とモノの発掘で解決できると考えた。丘の上

## 津名高等学校
## 創立100周年記念事業の概要
## （主なもの）

**１．記念事業**

①カリヨン修復：ミツ精機（株）・ミツテック（株）様の協力を得て、カリヨンの修復

②教育機器ワイビア５設置（HR教室に設置）

③特別教室（音楽室、社会科教室）に空調設備設置

④選択教室（２教室）に空調設備設置

⑤同窓会館リニューアル：「つなこう100年つながるミュージアム」としてリニューアル。校史資料室や集いの場として改修

⑥同窓会館リニューアル記念展及び講演会：令和3年3月７日開催

**２．記念行事**

①創立記念式典挙行：令和２年10月11日（日）於）体育館・多目的ホール
生徒　475名　教職員43名　主催者、来賓、招待者等138名出席

②創立100周年記念品制作
校舎をモデルにしたクリスタル置物と手さげバッグ

③記念誌発行
創立100周年記念誌を発行（2000部）

の池の畔に佇む小さなミュージアムのラフスケッチを描き準備をすすめた。その発想は本庁勤務時代に描いた夢「放課後博物館」からつながるもので、多くの入場者を誇る巨大な遠足博物館より点在型で気軽に本物に出会える地域資源を発信する小さなミュージアムで文化の種をあちこちに蒔いていくというものだった。

阪神淡路大震災からの文化の復興と重なる20年間社会教育分野にいた。本庁ではネットミュージアム兵庫文学館等の立ち上げ、ひとはくや美術館、図書館では新館構想や周年行事に関わった。その間も「放課後博物館」に拘り、NHK神戸との「まちかど文学館」開催や「本モノ」展示を県内図書館で展開、前任の尼崎工業高校では学校図書館を「放課後博物館」にした。プライベートでも自然や歴史、アート等の小さな展覧会を全国で巡回開催してきた。そのノウハウを結集したのがこのミュージアムだ。

「網」や「繋」につながる「津名」をキーワードに多様なものをつないでいこうと考えた。意識すると不思議なものでまずは井上民二さんがつながった。月より遠いといわれた熱帯雨林研究の先駆的な人物。社会教育分野に関わって最初に興味を持った研究者だったが半年後に事故死、出会うことなく目の前から消えてしまったが卒業生と聞き驚いた。その後はとんとん拍子で同窓の奥様とつながりオープニング展に決まり、図書委員お絵描き隊を結成しプレ展示を図書室ではじめた。次はモノだ。土器や瓦を見つけたら昆虫標本や海藻標本、野島鍾乳洞の牡蠣の鍾乳石「カキ石」発見と数珠つなぎでつながっていった。生徒の石磨き隊は熱心に化石をみがき、書道部生徒には名称板や「津名がる石の間」の軸を書いてもらった。生徒と教職員、同窓会の緩やかなつながりの展示チームができ、高島玲子会長にも「カキ石」のダジャレアート「花器石」にも挑戦頂いた。

こんなミュージアムが学校図書館のように学校に広がれば、いつでも本物に触れ、展示で構成や見せ方などの実践でき、同窓生や地域とのコンタクトポイントの場となり、コミュニケーションをデザインできる学校となりうる。学校も時代や多様性に即した普遍的な進化がないと生き残れない。もうひとつの夢の変身型ミュージアム展開をと思った矢先、小野高校への異動となった。五斗長垣内遺跡の鉄の斧のレプリカ制作をはじめ、落成式での野島鍾乳洞発見講談では、共演頂いた地学部ＯＢの小野山さんの姓をもじって「ＯＨ！ＮＯ！」と言い過ぎたようだ。僕は子供の頃から水辺にゆかりがある「海人族」だ。津名港から明石海峡をこえ加古川を上り小野にいくが、これからも旧職員同窓会員としてこのミュージアムを応援していきたいと思っている。

ミュージアムの展示室

ミュージアム開館式典

## 私の一行詩

**菅　耕一郎**（高十八回生）

私の一行詩は俳句界でいう自由律といった方が分かりやすいかもしれない。その出発において種田山頭火（さんとうか）、尾崎放哉（ほうさい）に学ぶところがあったので。また身近にいた、漫画家の永島慎二さん（放哉の句を作品化していた）や河東碧梧桐（へきごどう）の研究家で短詩人の来空さんがいたことも影響しているであろう。残念ながら両氏は鬼籍に入られたが。私の原点である、「鬼歌（きか）」（２００１年に自費出版）から、気に入った10章（句）を選び、多少手を加えたものをここに取り上げてみたい。

殊に、いま思うことは、一行詩を子供の落書きのように書けないか、同じくアール・ブリュット（生の芸術、アウトサイダー・アートという呼び方もされる）作家のように喜々として打ち込めないか、ということ。

☆　☆　☆　☆　☆

・畜生とかして駆けぬける喜び
・足の考えることが正しい　雲よ
・ぼちぼち鬼も出てくる東京日記
・いろ　恋のみなもと
・まあこんなものかと鏡の貌に
・イカズチの父の脚より生まれる
・とおく男花火が騒いでる
・引っかかってくれよ天の網の目
・どちらの旅へ雲の子わく
・老いてお別れか目と目で

## 奈良めぐりのご案内　阪神支部　主催

なら観光ボランティア朱雀の会の松野聰子さん「高15回生」の案内によるお馴染みの奈良案内です。一般の観光とは一味も二味も違う奈良案内。大仏さんだけではない東大寺の魅力をガイドの松野さんと共に探索しませんか！

**日　　時：**2021年10月2日（土）　**集合時間：**12：30
**集合場所：**近鉄奈良駅　行基噴水前
**解散場所：**近鉄奈良駅　16：00頃
**コースとスケジュール**
行基前…吉城園…大仏殿…正倉院…二月堂…三月堂…鐘楼…東の塔跡　…南大門…近鉄奈良駅（大仏殿三月堂各600円）（…は徒歩）
入堂拝観は、吉城園、大仏殿、三月堂です。

・当日は、歩きやすい服装でおいで下さい。（小雨決行）
・津名高校にご縁がある方ならどなたでも参加できます。旧友、先輩、後輩お誘い合せてお申し込みしてください。
尚、お申し込みには氏名　卒業年次　連絡電話番号　当日の緊急の連絡のため携帯番号。

**案内人：**なら観光ボランティア朱雀の会　松野聰子（高15回生）
**案内申込先：**世話係　田中種義（高13回生）
TEL. 072-675-9131　FAX. 072-675-9132
携帯番号 090-3842-9658
又は、東田雅俊（高16回生）携帯番号　090-7101-6861

※新型コロナウイルス禍の今後の状況によっては中止もあり得ますので、この旨お含みおきください。

# 津名高等学校72回生（令和３年度４月卒業）進路状況

津名高等学校　進路指導部

**四年制大学**

| 大学名 | 進学 |
|---|---|
| 大阪大学 | 2 |
| 大阪教育大学 | 2 |
| 兵庫教育大学 | 1 |
| 広島大学 | 1 |
| 山口大学 | 2 |
| 高知大学 | 2 |
| 徳島大学 | 3 |
| 香川大学 | 1 |
| 愛媛大学 | 1 |
| 九州工業大学 | 1 |
| 国立大学合計 | 16 |
| 大阪市立大学 | 3 |
| 京都府立大学 | 1 |
| 兵庫県立大学 | 4 |
| 神戸市外国語大学 | 1 |
| 広島市立大学 | 1 |
| 福山市立大学 | 1 |
| 新見公立大学 | 1 |
| 愛媛県立医療技術大学 | 1 |
| 高知工科大学 | 1 |
| 公立大学合計 | 14 |
| 国公立大学合計 | 30 |
| 日本大学 | 1 |
| 中央大学 | 1 |
| 東京工科大学 | 1 |
| 桃山学院大学 | 1 |
| 花園大学 | 1 |
| 京都産業大学 | 3 |
| 京都文教大学 | 1 |
| 立命館大学 | 1 |
| 龍谷大学 | 1 |
| 近畿大学 | 1 |
| 関西大学 | 1 |
| 関西国際大学 | 2 |
| 四天王寺大学 | 2 |
| 関西福祉大学 | 1 |
| 佛教大学 | 1 |
| 大和大学 | 1 |
| 大阪大谷大学 | 1 |
| 大阪音楽大学 | 1 |
| 大阪経済大学 | 1 |
| 大阪産業大学 | 1 |
| 大阪体育大学 | 2 |
| 関西外国語大学 | 1 |
| 関西学院大学 | 3 |
| 甲南大学 | 4 |
| 武庫川女子大学 | 2 |
| 神戸学院大学 | 6 |
| 甲南女子大学 | 2 |
| 神戸常盤大学 | 4 |
| 関西看護医療大学 | 3 |
| 神戸芸術工科大学 | 1 |
| 神戸松蔭女子学院大学 | 2 |
| 神戸女子大学 | 7 |
| 神戸親和女子大学 | 2 |
| 宝塚医療大学 | 1 |
| 流通科学大学 | 2 |
| 私立大学合計 | 66 |

**短期大学**

| 短大名 | 進学 |
|---|---|
| 大阪芸術大学短期大学部 | 1 |
| 大阪成蹊短期大学 | 1 |
| 神戸女子短期大学 | 2 |
| 白鳳短期大学 | 1 |
| 武庫川女子大学短期大学部 | 1 |
| 短大合計 | 6 |

**専門学校**

| 学校名 | 進学 |
|---|---|
| 大阪労災看護専門学校 | 1 |
| 関西労災看護専門学校 | 2 |
| 神戸看護専門学校 | 2 |
| 神戸総合医療専門学校 | 2 |
| 神戸中央病院付属看護専門学校 | 1 |
| 西宮市医師会看護専門学校 | 1 |
| 平成淡路看護専門学校 | 4 |
| 横浜労災看護専門学校 | 1 |
| 関西総合リハビリテーション専門学校 | 3 |
| 兵庫県立総合衛生学院 | 1 |
| 大阪アミューズメントメディア専門学校 | 1 |
| 大阪ウェディング&ブライダル専門学校 | 1 |
| 大阪テーマパーク・ダンス専門学校 | 1 |
| 大阪ハイテクノロジー専門学校 | 1 |
| 大原学園 | 1 |
| 大原簿記専門学校神戸校 | 1 |
| 神戸・甲陽音楽&ダンス専門学校 | 1 |
| 神戸製菓専門学校 | 1 |
| 神戸総合医療専門学校 | 1 |
| 神戸電子専門学校 | 8 |
| 神戸動植物環境専門学校 | 1 |
| 神戸ベルエベル美容専門学校 | 3 |
| 神戸元町医療秘書専門学校 | 1 |
| 神戸元町こども専門学校 | 1 |
| 専門学校合計 | 41 |

**就職状況**

| 会社名 | 就職 |
|---|---|
| (株)森長組 | 1 |
| ムネ製薬(株) | 1 |
| 川崎重工業(株) | 1 |
| 日本郵便(株)　近畿支社 | 1 |
| (株)神戸製鋼所　加古川製鉄所 | 1 |
| 日本製鉄(株)　関西製鉄所　尼崎地区 | 1 |
| 日本通運(株)　神戸支店 | 1 |
| 民間就職合計 | 7 |

| 公務員種 | 就職 |
|---|---|
| 徳島県警察 | 1 |
| 淡路市役所 | 1 |
| 自衛隊 | 1 |
| 公務員合計 | 3 |
| 民間公務員合計 | 10 |

## クラブ活動の状況（令和2年度）主な活動状況

### 体育部活動状況

**【陸上競技部】**
第53回近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会
〈男子２年〉
　走幅跳：８位　海道藍真
　三段跳：２位　海道藍真
〈女子１年〉
　1500m：９位　田中心渚
男子第75回・女子第37回兵庫県高等学校駅伝競走大会
〈男子〉
　総合15位　２時間17分56秒　徳田・多田・杖谷・浦上・吉田・山内
〈女子〉
　総合４位　１時間15分00秒　田中・山崎・杉浦・山口・本多

**【男子ソフトテニス部】**
第52回　令和２年度　淡路選手権　個人戦
　優勝　竹田・弦牧

**【野球部】**
令和２年度夏季兵庫県高等学校野球大会
　２回戦　津名　2−0　西脇
　３回戦　津名　9−7　明石
　４回戦　津名　0−3　東播磨

**【男子バレー部】**
第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会
　淡路地区予選大会　優勝

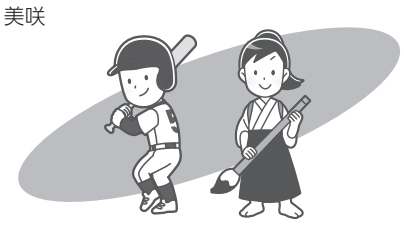
### 文化部活動状況

**【ギター・マンドリン部】**
第44回兵庫県高等学校ギター・マンドリンフェスティバル：「水青木ハワイの海にて」（ケテルビー作曲）
※全国大会推薦

**【書道部】**
第44回兵庫県高等学校総合文化祭書道展（兼）
第66回兵庫県高等学校書道展
　優秀賞　２年　伊藤彩夏
　特　選　２年　中山絢愛

**【美術部】**
第44回兵庫県高等学校総合文化祭
　美術・工芸部門展
　立体造形作品「カマキリ」２年　藤本　智晶

**【メディア部】**
第44回兵庫県高等学校総合文化祭
　写真部門　淡路支部予選　特選１年　上坂美咲



## 津名高等学校同窓会ホームページ

パソコン・スマホで「百年津名高校」と検索すれば
「津名高等学校同窓会ホームページ」が現れます。
URL　http://tsunako-dosokai.com
**阪神支部からの案内・報告等も載せています。**

## 令和２・3年度 兵庫県立津名高等学校同窓会阪神支部役員

| | 卒回 | 氏　名 |
|---|---|---|
| 顧　問 | 5 | 立花　和也 |
| 支部長 | 16 | 東田　雅俊 |
| 副支部長 | 13 | 田中　種義 |
| | 15 | 中野　淑郎 |
| | 17 | 正面　昇 |
| | 18 | 杉岡　実季子 |
| | 18 | 森　章次 |
| | 27 | 藤木　啓彰 |
| 会　計 | 16 | 上田　敏晴 |
| 会計監事 | 14 | 南　正光 |
| | 19 | 南山　明義 |
| 幹　事 | 5 | 河合　春子 |
| | 6 | 坂東　章好 |
| | 6 | 尾崎　田鶴子 |
| | 9 | 沖　正典 |
| | 14 | 桑名　賀代子 |
| | 15 | 門　康彦 |
| | 15 | 北川　映子 |
| | 15 | 上田　佐代子 |
| | 15 | 砂川　文孝 |
| | 15 | 松野　聰子 |
| 幹　事 | 16 | 岩中　俊博 |
| | 16 | 鈴鹿　胤美 |
| | 16 | 正徳　孝夫 |
| | 16 | 砂田　則一 |
| | 17 | 中田　晴繁 |
| | 17 | 潮崎　章二 |
| | 17 | 上宮正一郎 |
| | 17 | 木場　弘 |
| | 18 | 柳谷　承示 |
| | 18 | 吉川　泰久 |
| | 18 | 中尾　進 |
| | 19 | 花野　正悦 |
| | 19 | 田井地　力 |
| | 19 | 高田　穂 |
| | 19 | 西　眞理子 |
| | 20 | 菅　数子 |
| | 20 | 土井　裕司 |
| | 21 | 橋口　芳子 |
| | 21 | 辻野　由里子 |
| | 21 | 濵口　栄 |
| | 22 | 柏木　豊彦 |
| 幹　事 | 23 | 奥田　正博 |
| | 23 | 池田　幸三 |
| | 26 | 浜野　恭弘 |
| | 27 | 藤森　泰宏 |
| | 27 | 鍋谷　高広 |
| | 27 | 西川　和子 |
| | 27 | 奥野　豊 |
| | 28 | 漣　庸次朗 |
| | 28 | 魚　雅勝 |
| | 33 | 魚井　和彦 |
| | 34 | 向田　憲司 |
| | 37 | 中谷　光孝 |
| | 37 | 桂　敦子 |
| | 38 | 中野　恭典 |
| | 39 | 大迎　規宏 |
| | 39 | 冨永　康文 |
| | 39 | 名手　健二 |
| | 43 | 脇本　真行 |
| | 52 | 上田　勇紀 |

以上61名　2021年７月１日現在

## 令和３年度 高17回生・昭和41年（1966年）卒業 4・5・6組 合同同窓会開催のご案内

昨年は新型コロナウイルス感染拡大により開催できませんでしたが、今年は感染が治まれば開催したく企画しております。下記案内いたします。

万一中止する場合はあらかじめ代表世話人櫛笥亨夫よりご連絡いたします。

この新聞が皆様に届くまでに連絡があった場合はご了承ください。

正面　昇（高17回生）

**―開催の案内―**

◎**開催日**　令和３年（2021年）11月14日（日）12時～
　（受付11時半～）
◎**場　所**　舞子ビラ神戸　TEL078-706-3711
　神戸市垂水区東舞子町18-11
　代表世話人　櫛笥　亨夫　携帯090-3862-3127

## 編集後記

支部報第26号は今年も緊急事態宣言が発令される中での編集作業となった。一年以上たった今も新型コロナウイルス感染症の収束は見えていない。このような中多くの皆様方にご支援・ご協力いただき何とか発行することができました。賛助広告にご協力いただいた企業やOBの皆様方、支部年会費にご協力いただいたOBの方々、原稿を執筆いただいた方々をはじめ数多くの関係者の皆様方に心から感謝申し上げる次第です。

ワクチン接種も医療関係者に続き、高齢者等への接種が5月下旬より本格化し、これからはより年齢の若い世代への接種も大規模に始まる予定だ。このことによりコロナ禍が収束に向かうことを今はただ祈るばかりだ。来年の今ごろは、日本や世界の状況はどうなっているのだろうか。

## 編集委員

**編集委員長**
東田　雅俊　(16)

**副委員長**
上田　敏晴　(16)
正面　昇　(17)
田中　種義　(13)
南　正光　(14)
北川　映子　(15)
中野　淑郎　(15)
松野　聰子　(15)
杉岡　実季子　(18)
森　章次　(18)
南山　明義　(19)
菅　数子　(20)
奥野　豊　(27)
西川　和子　(27)
★（　）は卒業回生

## 阪神支部会費納入のお願い
（年額 2000円、令和３年度分）
同封の払込取扱票にて

**★郵便振替口座**
**口座番号**　00980-7-184478
**口座名義**　兵庫県立津名高等学校同窓会阪神支部

**★銀行振込ご利用の場合**
**銀行支店名**　三井住友銀行鈴蘭台支店
**口座番号**　普通預金　5058703
**口座名義**　兵庫県立津名高等学校同窓会阪神支部